

2021年1月13日

## 「トラックドライバー用アプリ(仮称)」の試運用開始について

当社は、鉄道を基軸としたサプライチェーンの構築による物流全体の生産性・付加価値向上を図るため、新技術の導入による貨物駅のスマート化を推進する「トラックドライバー用アプリ(仮称)」の導入を検討してきましたが、このたび、2021年度下期より、全国6駅にてスマートフォンを活用した同アプリの試運用を開始することとなりましたのでお知らせいたします。

貨物鉄道輸送における利用運送事業者様の作業利便性向上と、荷役作業のさらなる安全性向上・省力化により、「トラックドライバー」・「フォークリフトオペレーター」・「利用運送事業者」・「貨物駅」間相互の強靱で持続可能な物流ネットワークを構築し「強くてしなやかな物流」を実現します。

### 1. トラックドライバー用アプリ(仮称)の概要と機能

これまで、トラックドライバーが直接参照することのできなかった各種情報をトラックドライバーのスマートフォンへリアルタイムに提供します。また、コンテナ持込・持出時間予約により駅構内荷役作業を可視化し、混雑状況を事前に把握できるようになります。

#### 【当初導入予定機能】

- (1) コンテナ持込・持出時間予約
- (2) 貨物列車位置・遅延情報
- (3) コンテナ位置情報
- (4) 駅からのお知らせ情報

### 2. 導入効果

- (1) コンテナ持込・持出時間予約

事前にコンテナの持込・持出時間を予約することにより、フォークリフトオペレーターの荷役作業と駅構内の混雑状況が可視化され、スムーズな荷物の受け渡しと利用運送事業者様の効率的な配車計画に寄与します。また、フォークリフトによるハンドリング回数が減ることにより荷役事故が減少します。

- (2) 貨物列車位置・遅延情報

トラックドライバーが、いつでもどこでも関係列車の走行位置や遅延情報を確認することができるようになります。

- (3) コンテナ位置情報

駅構内でのコンテナ所在位置をマップ表示することで、トラックドライバーが駅構内で降車する機会が減少し、作業安全性が向上します。

- (4) 駅からのお知らせ情報

列車遅延による作業変更情報等を貨物駅から直接提供し、情報伝達迅速化を図ります。

### 3. 導入スケジュール

2021年度下期より、6駅(函館貨物駅、仙台貨物ターミナル駅、隅田川駅、静岡貨物駅、百済貨物ターミナル駅、北九州貨物ターミナル駅)に試運用駅として、上記4つの機能を順次リリースします。利用状況や課題を精査した上で、機能の改修およびその他機能の拡充を行います。その後、2022年度中に全国コンテナ取扱駅に順次展開していく予定です。

# 導入機能



**利用運送事業者**

**貨物駅**

※貨物列車位置・遅延情報、駅構内のコンテナ位置情報



※持込・持出時間予約入力

※お知らせ情報入力

IT-FRENSサーバー

データ連携

**トラックドライバー**

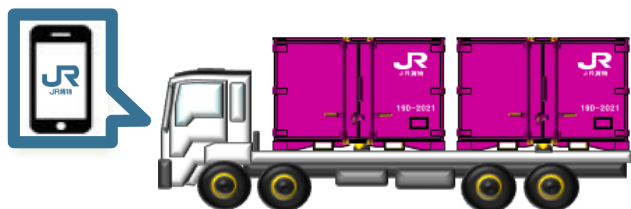
**フォークリフトオペレーター**

※アプリで各種情報参照・  
持出・持込時間予約変更入力

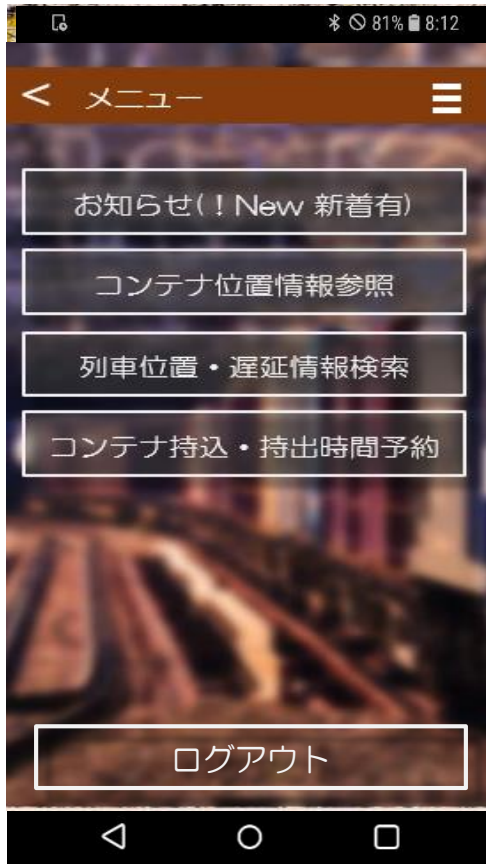
※持込・持出時間予約参照

アプリサーバー      TRACEサーバー

※持込・持出時間予約連携



# アプリ画面イメージ（開発中）



メニュー画面



コンテナ位置情報参照画面